

2012年12月3日
mail ニュース
No.5・通巻280

部内資料・都知事選特集

自治労連 都庁職

自治労連都庁職員
労働組合
発行人 風間隆行
TEL 03-5381-0250

憲法を生かす都政への転換を！

一橋大学名誉教授・渡辺治先生が講演

11月30日に「憲法をいかす自治体労働者東京連絡会」の第8回総会が開かれ、記念講演で渡辺先生は、「日本政治の新段階と新しい都政の展望」について語りました。

先生は日本の新自由主義は第3期に入ったと述べました。バブル経済が弾けた1990年から小泉構造改革（2006年）までを第1期、貧困と格差が拡大し、新自由主義の矛盾が拡大とこれに対抗する国民的運動が高揚した2012年までを第2期とし、現在、3党合意に象徴されるような大連立・保守談合政治という第3期に入ったというのです。



軍事大国化と構造改革の強化を財界とアメリカ、特にアメリカから強く求められて進められている大連立は同じ穴の貉の集まりであり、そのあとはないという弱点を思っています。それだけに支配階級は維新の会に対して、保守二大政党が地盤沈下しているので保守の受け皿とすることと超右翼的な主張により政治の対抗軸を右に移動することを期待しているのです。

こうした下で行われる今回の東京都知事選挙では、官邸前集会に見られるような市民運と政党との共同が初めて実現しました。今の政治に必要な構造改革と軍事大国化に歯止めをかける政治をかける政治を新たな福祉国家構想という形で、東京から実現することが必要だと先生は訴えました。

連絡会総会の後、「革新都政を実現する全都自治体労働者の会」決起集会を開催し、宇都宮さんを都知事にすることなどの申し合わせを確認しました。都庁職病院支部の太田支部長が「執行委員会で宇都宮さんの推薦を満場一致で決定した」、公務公共一般青年ユニオンの武田委員長が「宇都宮さんは非正規労働者の5年有期を止めさせると約束しており、私たちの味方だ」と元気の出る発言が飛び出しました。